

新春 対談

辰年の 市政を語る



市民の声を聴き 身近で開かれた議会を目指したい

渡邊繁雄議長

市長 農業公社を商社化して、農産物を売買できる法人にしました。これにより農家から直接、農産物を買って付けることができます。野菜は米よりもっと儲かるというのをPRし、今までの米一辺倒から畑作に変え、それにより新たな利益が生まれ、いくシステムを構築していきたいと思っています。そうすれば、総社のほ場の景色が変わっていきます。

議長 お互いによく相談をしながら、実態を見て、それに合わせた方向へ進めていきましょう。障がい者千人雇用は、各企業へいかにPRできて、うまく雇用につなげることができかが重要ですね。

市長 5年で1000人という目標の障がい者千人雇用。すでに昨年11月で420人ということになりました。福祉関係、あるいは民間関係で助け合って、ここまで増えたのは、非常にスピード感があつたと思います。しかし、500人を超えた時点で次の峠がやってくると思います。そのときは新たな政策をもって、1

000人に1日でも早く近づけていきたいです。

議長 100%完全なものはずかしいので、息の長い努力が必要だと思いますよ。市長が言われるようになる程度までいくと頭打ちになる可能性が出てくると思います。休まず緩めず続けることです。

市長 何でもいきなり成功するものではないので、今年は、総社流の施策が未来へ続いていくための土台作りの年にし、きっちり実績を積み上げる堅実さが求められます。

地域主権を勝ち取る

議長 ところで、地域主権は市町村が中心となって物事を進めていかなければなりません。本場に、市役所が中心になってやっていけるのが重要です。

市長 今まで地域主権が進んでいない理由は、国から地方を見たときに税源や権限を与えたとき、ちゃんとやれるのかという疑心暗鬼があつたからです。地域主権は、国から与えら

議長 利用者は伸びてきていますが、市民もバス・タクシー業者もみんなが喜ぶものというのはむずかしい。

市長 もちろん、バス・タクシー業者の経営も考えなければなりません。今年4月をめどに、新たな改善策を提案していきたいと考えています。雪舟くんの制度改革や見直しにもより柔軟に対応して、将来的にみんなが喜び合える総社流のシステムを作りたいと考えています。

議長 地・食べも、今は初期の段階です。実際は地に足のついた方向でいこうと思うと、まだまだ改善、改良を重ねないといけません。

れるものではありません。地方が自立して、税源や権限をきちんと運用できるだけの能力をもつことが大事なんです。

議長 市民にも、心構えが必要ではないでしょうか。地域主権という言葉に、勇み足になるような動きをする業界も出るのではと心配します。そうならない仕掛けをするのも市の役割だと思っています。

市長 そうですね。私たちが地域主権に対する総社流のテーマを市民に示していかねばなりません。市民が一致団結して協力しようとなつたら、地域主権は成立し、大いに進

んでいくでしょう。だから、いかに市民の協力が得やすい制度を、私たちが次々と作っていくかが大事になりますね。

議長 そこに、市民の大半の人が安心・安心を実感でき、小さなことでも幸せを感じることができれば、まさに元気が出てくると思います。

市長 そういう意味では市役所の職員が、いかに高いサービスと高い奉仕の心をもって市民に接することができるといいですね。

企業誘致を進める

議長 今の総社市の財政状況を見ると、いろんな思いはあつてもなかなか踏み切れない。長期安定財源の確保には、やっぱり企業誘致です。職場が多ければ働く人が自分にマッチしたところを選択できるわけですから。長期安定財源にも、働く人の安心にもつながります。

市長 今年も企業を誘致できるように、

力を入れていこうと思っています。

議長 人口が10万人を超えると、まちの活気が違います。人口を増やすためにも、企業誘致を進めましょう。

市長 人口10万人にするには外に出て行った若者が帰ってくる、いわゆる総社市圏内で商いが成り立つ新循環地域を作っていかなければなりません。この理想を掲げながら企業誘致に取り組んでいきます。

今年の抱負

議長 市民の皆さんの声を聴き、市政に反映する開かれた身近な議会であることが第一です。後戻りをせず、堅実に一歩ずつ前へ向いて進む、そんな一年にしたいと考えています。

市長 私も市民のために、総社市の将来のために多くの決断をしていきたい。特に2期目のスタートの年になるので、スピード感をもって着実に前進していきたい。今日は、ありがとうございました。



総社流の政策を未来まで続けるため 土台作りの年にする

片岡聡一市長